

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(自立支援・介護予防・重度化防止)

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度未実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>高齢者がいきいきとその人らしく暮らし続けるためには、生活習慣病等に注意し、要介護状態にならないためのフレイル予防や要介護状態の軽減・悪化の防止に取り組み、健康寿命の延伸を図ることが重要である。また、生活習慣病等基礎疾患があると、新型コロナウイルスなどの感染症の重症化を引き起こしやすくなり、さらに、新型コロナウイルス感染症の影響によって在宅時間が増加することでフレイル状態になることが懸念される。本市では、高齢者を年齢や心身の状態などによって分け隔てることなく、住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進するとともに、地域において「ハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進し、要介護になっても生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目的とした一般介護予防事業に取り組んでいる。</p> <p>国の通いの場に参加する高齢者の割合(2025年までに8%)は、本市において令和元年度時点で8.1%であり目標値を達成した。高齢化の進展に伴い、高齢者のニーズが多様化しており、高齢者の関心事等に応じて参加できる多様な通いの場の充実と継続に向けた取組が必要とされている</p>	<p>介護予防ケアマネジメント相談会(自立支援型ケア会議)の実施</p>	<p>介護予防ケアマネジメント相談会 (自立支援型ケア会議)の実施 R3(目標)12回 R4(目標)12回 R5(目標)12回</p>	<p>介護予防ケアマネジメント相談会(自立支援型地域ケア会議)の実施(R4.3末):7回開催</p>	△	<p>・新型コロナウイルス感染症の状況により、3回中止となった。年度後半ではオンライン開催とし、中止とならないような開催方法とした。 ・介護予防ケアマネジメント支援研修会を開催し、自立支援のためのケアマネジメント、ケアマネジメントの標準化、悪化の防止の視点の重要性の再確認をする機会となった。 ・今後は、他事業との連動等も検討していく。</p>
		<p>福島市版介護予防体操「いきいきももりん体操」の推進</p>	<p>いきいきももりん体操活動団体 R3(目標)210団体(2,865人) R4(目標)254団体(3,773人) R5(目標)298団体(4,213人) いきいきももりん体操サポーター R3(目標)230人 R4(目標)260人 R5(目標)290人</p>	<p>活動団体:166団体 活動人数:2,894人</p> <p>・いきいきももりん体操実施希望団体に対するのスタート応援講座(体操の指導や体力測定) ・市民への普及啓発(フレイル予防講演会、いきいきももりん体操体験講座・交流会) ・5分できるフレイル予防体操動画作成(全3回)、YouTubeへの掲載。 ・いきいきももりん体操・お口のももりん体操DVD検討委員会の開催。 ・いきいきももりん体操伝道師フォローアップ講座の開催。</p>	○	<p>【令和3年度実施内容と課題】 ・コロナ禍により、新規団体の立ち上げが少なかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で活動の自粛が続いている。自粛生活による生活不活発や、新型コロナウイルス感染症終息後も地域のつながりが薄れ、活動を再開できないことなどが懸念される。 ・個人でできるフレイル予防として、5分できるフレイル予防体操を作成した。今後も普及啓発を行っていく。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、お口のももりん体操の団体での実施自粛をお願いしている。口腔機能低下によるフレイルが懸念される。 ・令和3年度、包括より「体操団体に通っていたが、通うことができなくなった方がいる」と連絡あり。コロナによる団体への影響、地域の状況について把握し、必要時包括へつながることができるようネットワークづくりが大切。 【対応策】 ・いきいきももりん体操伝道師・サポーターの活用により、住民からの口コミ効果での新規団体の拡大や、活動を検討している住民への支援を行う。また、通うことができなくなったなど地域の情報を教えていただくネットワークを形成する。 ・体操団体へ、感染予防対策やつながりを切らさない秘訣など健康づくりについて周知を行う。 ・いきいきももりん体操・お口のももりん体操DVDを作成し、感染対策に留意しながら一体的に体操を行うことができるようにする。また、個人でできる体操も収録し、普及する。</p>

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート(給付適正化)

○介護給付適正化主要5事業の実施状況

要介護認定の適正化	○
ケアプランの点検	○
住宅改修等の点検	○
縦覧点検・医療情報との突合	○
介護給付費通知	○

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R3年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
②給付適正化	①ケアプラン点検について、専門職からの助言をもらう仕組みづくり ②住宅改修、福祉用具購入・貸与の点検について、書類上の点検は行っているが、専門職が現地を訪問し点検をする仕組みづくりが課題である。	課題①②の仕組みづくりと、保険給付請求の適正化を図る。	①3年度 16件 ②3年度 0件	①ケアプラン点検については、専門事業者へ委託し助言・指導をもらうこととし、年度間で60件の点検を実施した。 ②については、4年度からの取り組みに向け検討を進めた。	◎	住宅改修等の現地調査を除き実施しており、今後も介護保険事業の適切な運営に努めてまいり。なお、住宅改修等点検については、担当職員が申請内容を確認し疑義が生じた際には、県あるいは他自治体での取り扱いなどを確認し適切な給付につなげている。